

教師用指導案「環境に配慮した東京 2020 大会選手村」

- 対象： 小学校中高学年
- 本時のねらい： 選手村における木材の活用を知り、環境に配慮する重要性を理解する。
- 準備物： 東京 2020 大会公式ウェブサイト [「持続可能性」](#)
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、学級活動、生活科 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 東京 2020 大会の選手村について、環境の点で工夫されていることについて知る。	日本中から木材を集めて、選手村に使い、大会後も木材を使うことが環境にやさしいことを学ぶ。	
展開 (10分)	2) 環境を守らないと温暖化が進み、雪が溶けて冬のスポーツが行えなくなるなどの影響があることを理解させる。 長野 1998 冬季大会で、環境に配慮した取組を紹介する。		「オリンピック・パラリンピック競技大会学習読本」 小学校編 p.34-35
(10分)	3) 東京 2020 大会の選手村の中に、選手の生活を支え、また選手同士の交流が行われるビレッジプラザという場所があり、歓迎の式典などが行われる。ここは日本の各地から提供された木材を使用して作られることを学び、木材はなぜ環境に良いのか考える。	ビレッジプラザのイメージ図を東京 2020 大会公式ウェブサイトから見せる。 木材は二酸化炭素を吸収して貯める役割があること、植林などで繰り返し生産できることなどを話し合う。	東京 2020 大会公式ウェブサイト 「日本の木材活用リレー」
(10分)	オリンピック・パラリンピックが終わったら、この木材は壊すのではなく、提供した自治体に戻し、活用される。どのような活用が考えられるか考えよう。	レガシーとしてリユースする案をグループで考える。	
まとめ (10分)	グループの成果をクラスで共有する。大会中のみならず、大会が終わった後の資材の使い方を考えておくことの大切さを確認する。		東京 2020 大会公式ウェブサイト 「日本の木材活用リレー」 にある木材を提供した自治体のメッセージ